

平成 24 年度当初予算

24年度の予算編成にあたっては、東日本大震災からの復興や放射能対策を着実に進めながら、「選択」と「集中」により事業の重点化を図るとともに、第2次行財政改革大綱に基づく徹底した経常経費の見直しを行い、健全な財政基盤の確立を基本として予算編成を行っています。全会計の予算額は、1,035億2,238万円で、前年に比べ95億8,371万円、10.2%の増となりました。詳しい内容は市ホームページに掲載しています。そちらもご覧ください。

■問合せ＝本庁財政課財政係（内線 323・324）

前年度を大きく上回り最大の予算規模

一般会計予算の総額は、638億7,670万円で、23年度当初予算と比較すると、89億3,110万円、16.3%の大幅増となりました。これは、土地開発公社の債務解消のため、「第三セクター等改革推進債」92億円を借り入れ、同額を返済に充てる予算措置を行ったことが影響しています。この92億円を除くと、23年度当初予算と比較し、2億6,890万円、0.5%の減となります。

【歳入】

市税は、法人の業績回復や税制改正の影響による市民税の増やたばこ税の増などにより、対前年2億7,838万円、2.3%の増となりました。地方交付税は、地方財源充実確保の方針に基づき、6億6,149万円、3.4%の増を見込んでいます。

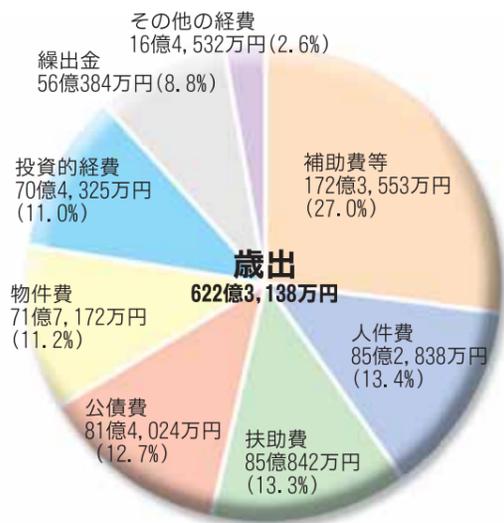
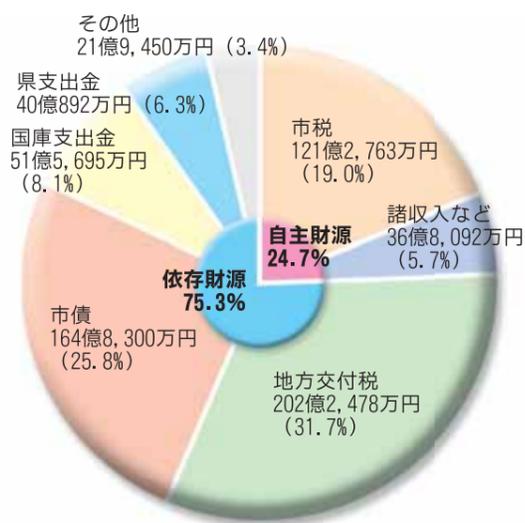
【歳出】

人件費・扶助費・公債費を合わせた義務的経費は、公債費が第三セクター等改革推進債の償還などにより3億5,239万円、4.5%の増となったものの、職員給削

減などにより人件費を抑制。また子ども手当制度の見直しにより扶助費が減ったため、義務的経費全体として4億1,276万円、1.6%の減となりました。補助費等は土地開発公社債務保証金92億円を計上したため、89億1,985万円、107.3%と大幅な増となりましたが、これを除くと2億815万円、3.4%の減となります。物件費は行財政改革大綱に基づき節減に努めました。原発事故対策として実施する放射性物質除染業務委託料などを計上したため2億574万円、3.0%の増となりました。繰出金は、国民健康保健事業や介護保険事業への繰出しが増加し、3億630万円、5.8%増となっています。

投資的経費は、総合計画および新市建設計画の主要事業に、重点的に予算を配分しました。

一般会計予算



◎平成24年度教育行政方針

未来を拓く人を育てる学びのまちづくり

千葉啓一前教育委員長は平成24年第1回市議会定例会で、平成24年度の教育行政運営の基本となる「教育行政方針」を述べました。その概要を紹介いたします。

◆問い合わせⅡ市教育委員会事務局教育総務課（江刺総合支所内線411）

教育行政が果たすべき役割を踏まえ、未来を拓く人材を育てるため、教育施策の推進に取り組みします。

たくましく生きる力をはぐくむ学校教育環境の充実

23年度から小学校において完全実施となった学習指導要領が、24年度より中学校においても完全実施となります。児童生徒一人一人に確かな学力を保障する教育の充実に努めます。児童生徒自身の学ぶ力を引き出す授業づくりを目指す「学びの共同体」の考え方による授業改革を進め、教師の指導力の向上に取り組みます。読書環境を整備し、学校図書館の活用を推進します。義務教育の充実に当たっては、各学校において「まなびフェスト」の作成と活用、学校自己評価と同関係者評価の実施による目標達成型の学校経営の充実を図り、家庭や地域の信頼に応える学校づく

りを進めていきます。

前沢区の統合小学校は、26年度の開校に向けて校舎、屋内運動場の新築工事に着手、胆沢区の統合中学校については、「胆沢区中学校統合促進協議会」と連携・協働して、円滑な統合準備を推進し、基本設計に着手します。校舎などの改築事業は、真城小学校屋内運動場改築工事、水沢南中学校大規模改築の実施設計などを進めます。学校施設の耐震化については、常盤小学校と佐倉河小学校の屋内運動場の耐震補強工事を実施します。

生きがいあふれる生涯学習・文化活動の充実

「協働のまちづくり」の推進の一環として、24年度に公民館を地域自治の活動拠点となる「地区センター」に一元化し、地域住民主体の取り組みが進められます。地域におけるコ

コミュニティ活動や生涯学習活動がより充実した内容となるよう、教育委員会内に「生涯学習推進センター」を設置し、地域への支援体制の充実を図り、地域活動に関わる人材の育成に市長部局と一体となって取り組みます。

子どもの読書活動を推進するため、毎月4日を「奥州市家庭読書の日——ねえ、読んで——」と定め、その普及を図りながら、児童生徒などへの読み聞かせや読書ボランティアの活動支援などの各種事業を実施します。

次代をつむぐ歴史遺産の保存と活用

「平泉の文化遺産」の世界遺産登録により注目を集めるなか、本市は、平泉藤原氏を誕生させた歴史的に重



昨年12月にリニューアルオープンした前沢図書館

要な地域であり、鎮守府胆沢城など数多くの遺跡と歴史ドラマをとどめています。この歴史的特性を活用するとともに、世界遺産追加登録を推進するため、組織体制の再編強化を実施。追加登録候補である白鳥館遺跡については、「川湊」の可能性が指摘される西地区の早急な解明を目指し、計画的な発掘調査を実施します。国指定史跡大清水上遺跡の一般公開に伴い説明板を設置し、史跡公開を実施します。国指定史跡高野長英旧宅の保存修理を行い、武家住宅資料館を中心に歴史的建造物の公開を進める予定です。

潤い豊かなスポーツライフの推進

成人の週1回以上のスポーツ実施率67%以上の達成に向け、日常的にスポーツに親しみ、楽しむ機会を提供し、参加意識の高揚を図ります。

28年度開催予定の岩手国体では、本市は7競技の開催が予定されています。新たに国体準備室を設置し、専任職員を配置、実行委員会の事前組織として準備委員会を立ち上げます。